

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202528		
法人名	有限会社ケア・アンド・サポート		
事業所名	グループホームゆうしゅん (1F ユニット)		
所在地	長崎県佐世保市東浜町846-3		
自己評価作成日	平成24年11月8日	評価結果市町村受理日	平成25年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

佐世保湾の見える豊かな自然の中に位置し、心やすらぐ環境のもと「入居者全員がしあわせに過ごせますように」をモットーに、利用者一人一人が自分らしく、楽しく生活が出来るように、職員一丸となりご支援させて頂いています。日常生活面では、基本的な流れはあるが、日中の活動を強要する事はなく、本人の意思を尊重し、本人主体・本人のペースで思い思いに自由に生活して頂いてる。又、個別ケアの実践により認知症の進行予防やADLの低下防止を図ると共に、バリエーション豊富な食事の提供を行い、心身両面のサポートに努めています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル7階		
訪問調査日	平成24年12月11日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、佐世保湾を一望できる豊かな自然に囲まれた住宅街に立地し、心安らぐ環境である。「ゆうしゅん」というホーム名の由来に込められた、余生を穏やかに自由に暮らせることができる生活の場を提供している。入居者全員が幸せに過ごせるホームを目指し、職員は利用者一人一人との関わりを大切にしている。介護計画は本人の意志尊重を第一に持っている力を存分に活かせる内容を支援目標とし実践している。職員は介護計画の意義をしっかりと把握し、統一したケアを行っている。支援経過記録、モニタリング・評価の記録から職員の気配り目配りの細やかな配慮が確認できる。利用者と職員が信頼関係を築き、笑顔で支援に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆうしゅん独自の理念に基づき、入居者様方がお幸せにお過ごしになれるように、日々理念を意識し達成出来る様に職員全体で努力している。	「入居者全員が幸せに過ごせますように」という理念を年に一度振り返っている。職員は一人ひとりの幸福感の違いも大切に、支援のあり方について話し合い、これまでのライフスタイルを基に自由に過ごせるよう家族の一員として、寄り添う支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し総会に出席したり、地域活動にも極力参加し交流を深めるように努力している。また、近隣の店へ買物に行くなど地域との関係性構築に努めている。	自治会に加入し、清掃活動や町内主催の介護予防教室に職員が参加している。地元の高校生・大学生の施設見学やフラダンスやフォルクローレの演奏のボランティアの受け入れなど地域の交流を深めるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	発信する機会は少ないが、自治会会長や民生委員様方を通しての相談、助言、アドバイスは適宜行っている。又、迷い人の受け入れも実際に行い地域の方々との連携を図った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、定期的に会議を開催し、施設の様子の状況報告を行うと共に、参加者との意見交換を行い、情報の収集、サービスの改善・向上に取り組んでいる。	2ヶ月に1回、奇数月に規程のメンバーで開催している。入居者の現状や活動報告、外部評価の説明等や意見交換が行われている。参加者より会議のメイン議題がわかれば事前に考えて会議に臨むことができるのではとの提案が検討されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回市の担当者にも参加してもらい助言・アドバイス等を頂いている。また、運営に関する相談事は直接窓口に出向き相談を行っている。	市や福祉事務所の担当者と日頃から窓口や電話で相談やアドバイス等を気軽に聞いており、協力連携が取れている。介護に関する情報提供が随時あり、研修への参加を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で身体拘束についての内部研修を行い、「拘束をしない」ケア、入居者様が自由に行動できる生活を前提に全職員が取り組んでいる。	身体拘束をしないケアについて内部研修が行われ、全職員が語調を強めず、やさしい語りかけで拘束のないケアの実践に取り組んでいる。玄関の施錠は夜間のみで、利用者が自由に出入りできており、見守り支援で対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修の参加や内部での勉強会を開催するなど虐待防止について学び、不適切な言葉遣いやケア・虐待がないよう優しい介護に努めている。		

グループホームゆうしゅん(1Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業や制度の理解を深める為、内部での勉強会を実施した。制度の利用者に対しては、関係者との連絡を密に行い、調整・連携等にも努めご支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者、ご家族を含めたの説明を心がけ、事業所の方針や取り組みについて理解して頂き、同意を得るようにしている。また、契約改定時にも文書や口頭で都度説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族が気軽にいつでも話をし、頂けるような雰囲気を中心にしている。また、面会時には近況報告を行うと共に要望等を伺うように努めている。意見や要望については職員全体で話し合い、都度対応行っている。	家族の訪問時には、現状を伝え記録を見てもらい要望等聞いている。遠方の家族へは電話や便りで連絡を取っている。年1回家族懇親会を設け、ビデオ鑑賞やソフトバレーボールを楽しみ、職員といつでも気軽に話せる関係ができています。外食の機会を増やすなど要望が反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議はほぼ毎月開催し、確実に報告を受けている。問題点や意見は職員同士で話せる環境にあり、職員会議や勉強会において討議し、前向きに取り組んでいる。	職員は代表や管理者に意見や要望を言いやすく、会議では活発な討議が行われている。高さ調整付きの洗面台や衣類乾燥機の購入ほか、計算ドリル・塗り絵等の取り入れは職員の意見が反映されており、外部研修の参加希望もソフト変更で対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員数は十分に確保されて、殆どが正規職員のため、給与に関しては融通がききにくいですが、労働時間に関しては休み確保も満足がいく様になっている。給与については、処遇改善の助成制度を利用して幾分改善したと思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務シフトに応じて参加できるものは提案する様に心掛けている。1回/2ヶ月程度は外来講師にて勉強会を行うようにしている。資格取得に関して積極的に挑戦を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流に関しては、お互いの時間の調整がなかなか出来ず苦渋している。ブロック会議開催時には参加し、他ホームとの情報交換や交流の機会を得るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の段階で面談の機会を設け、相談に応じ、事前に顔合わせする事により安心していただけるように心掛けている。又、ご本人の話を傾聴し、出来ること出来ないことを判断していくと共に、新しい環境に慣れて頂けるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望、思いをしっかり傾聴し、今後の対応のあり方や方針について話し合い、不安を解消できるようなサービスを提供する事で、安心してご利用頂ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、ご家族との話し合いの場を持ち、問題解決に向けて対策を考え、必要に応じては他サービスへ繋げるなど臨機応変に対応行うように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	言動に耳を傾け、共感し、一緒に喜び楽しむよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日々の生活状況を伝達したり、時には電話にて近況報告を行い、ご家族の意向や要望を聴きながら共に支え合い、ご支援するように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会もあり、親戚との外出の機会も多い。馴染みの方との交流が継続出来る様、訪問し易い環境、雰囲気であるように心掛けている。	家族や親戚、知人の訪問や以前からの理美容室へ通ったり、馴染みの商店で買い物、墓参りに行くなど家族の協力もあり、馴染みの関係継続に努めている。また家族へメッセージを依頼し行事時に披露するなど、心の交流にも配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者一人ひとりの言動や行動を常に把握し、トラブルを未然に防ぎ円滑な関係が築けるように配慮している。また、利用者同士の関係を把握し、孤立のないようにコミュニケーションの場をつくる等、関係維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も他施設や医療機関へ面会に出向き、ご家族と情報交換を行うなど、契約終了後もこれまでの関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	対話の機会を多く持ち、意向や要望を傾聴し、その思いに近づけるように努力している。また、日々の関わりの中で発信された言動、行動、表情から本人の思いを汲み取り、職員間及びご家族との情報交換を行い、よりよい方向性へと導いている。	利用者の表情を見ながら、やさしい言葉をかけ、傍に寄り添うことで不安感を無くし気持ちを聞いている。難聴、発語困難な場合は家族に相談しながら日頃の行動、表情から思いを汲んでいる。散歩や入浴中に話される言葉には特に配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前に事前訪問、面談を実施し、本人、ご家族より情報収集を行い、生活スタイルや身体状況の把握に努めている。入居後は本人との会話の中から新たな情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調や言動、行動、表情等を観察し、サービスの提供を行っている。又、毎日の申し送りや月1回の職員会議にて情報交換・伝達を行い、一人ひとりに即したサービスの提供を心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族の意向や要望を確認すると共に、アセスメント、情報収集を行い、本人主体の計画を作成している。また、月1回の職員会議でモニタリングを実施し、必要に応じて変更、修正を行い対応している。	短期3ヶ月、長期6ヶ月の見直しとなっているが、毎月担当者が主となりモニタリングを実施し、ユニット会議で検討され必要に応じ修正等が行われている。プランの内容、細かな記録が評価に連動しており、書式の再構成等もある。本人の意向を反映し計画をもとに職員は日々支援に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況と個別の援助内容を分けて記録し、個別にファイルしている。毎日の申し送りや月1回の職員会議で情報を共有し実践に結び付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況や要望に応じて柔軟に対応している。また、個々の急な要望にも臨機応変に対応を行い、ご本人の満足に繋がるように努めている。		

グループホームゆうしゅん(1Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの美容室の訪問により継続的なサービスを受けられている。また、入居者様と一緒に地域活動へ参加し、地域との交流を図るよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される医療機関への受診が出来るように支援している。又、状況に応じては、往診や訪問看護による適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医は家族が通院介助しており、状況に応じ職員が通院介助を行っている。受診内容の報告を個人記録に記載し情報共有しており、協力医でもある代表へ報告している。2週間毎の往診と訪問看護の体制もある。緊急時の対応も整っており、必要な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制により定期的な訪問看護を受けている。看護師による日常の健康状態の把握、職員による情報伝達により適切な指示を受けている。突発的なケースについては、電話相談や臨時の訪問を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会に出向き、状態の把握に努めている。又、医療機関、ご家族との情報交換や意向確認を行いながら対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に関する方針については明文化し、利用者家族へ説明を行っている。終末期の支援については、本人やご家族の意向、要望を確認し、主治医、職員を含め話し合い、全ての関係者が同意の上で全面的にご支援している。	終末期・看取りに関する指針があり、入居時に説明をしている。利用者の状況に応じ、家族と医師、ホームと話し合いの場を持ち、意識の確認をし同意をもらっている。看取りの事例があり、職員は医師との連携のもと、安心して最後を迎えられるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内の勉強会で応急処置やAEDの使用方法について学習しているが、実際の場面でAEDを使用した経験はない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を行うと共に、月1回の避難・通報訓練を実施し、冷静かつ安全に避難・誘導が出来るように備えている。通報装置には自治会会長の登録も行い、地域の協力が得られる様にしている。	年2回避難訓練のうち1回は夜間想定避難訓練である。初期消火の訓練も受け、避難誘導には利用者の参加もある。消防署が立会い、訓練内容のアドバイスも受けている。災害時の避難誘導も訓練しており、近隣介護施設とも災害時の連携について話し合われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の気持ちを理解し、失礼がない様な言葉遣いや態度に留意し、又、押し付けのない介護を心掛けている。	職員の守秘義務は徹底しており、個人情報や事務所で管理している。写真など使用に関する同意書も整備している。自尊心を傷つけない介護について職員は検討しており、人前での失禁をなくす対処法を検討しトイレ誘導の声かけ以外に仕草やサインを把握して誘導している。但しトイレ使用時ドアが開いている場合がある。	利用者が自らトイレに入った場合、閉め忘れがあるかもしれないが、職員は利用者の羞恥心に配慮し、使用時、使用后ドアを閉める支援体制が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事にも一方的な押し付けにならないように、都度本人の意思を確認し自己決定して頂く様心掛けている。又、自己決定しやすいような言葉かけに工夫しながら対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	活動参加も本人の意思に任せ、強要することなく思い思いに、一人ひとりのペースで生活して頂く様に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃から身だしなみには気配りを行いご支援しているが、特に外出や行事の際はおしゃれを勧めている。理美容については、馴染みの理美容室へ出掛けられたり、ご家族より整髪・整容を受けられるなど、それぞれに希望に沿った支援ができています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下準備・作業を行って頂いたり、食事前のテーブル拭きや下膳は職員と一緒に片付けて頂くなど出来る分野で力を発揮していただいている。誕生日にはリクエスト食を、又、四季折々の旬の食材を取り入れ食の楽しみ支援に努めている。	各ユニット毎に利用者の嗜好や旬の食材を取り入れた献立を立てている。利用者の希望で個別に代替の食材を使うこともあり、咀嚼に合わせた盛りつけが行われている。行事では盛りつけをバイキング形式にしたり、外食に出かけたり、食事を楽しめるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や食事形態も個々に応じて調整、対応を行っている。また、水分補給についても、好みの飲料水や果物を提供したり、夜間のお茶を準備するなど一人ひとりに応じた対応を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施、又、週に1度ポリドント洗浄を行い清潔保持に努めている。介助が必要な方には、付き添いを行い、また全面的なサポートが必要な方については、スポンジブラシを使用する等、個々に応じた口腔ケアを実施している。		

グループホームゆうしゅん(1Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、一人ひとりの排泄パターンに応じて声かけ、誘導を実施している。又、行動を素早くキャッチし、失敗のない支援を心掛けている。日中はなるべく布パンツの使用を勧め、排泄の自立支援に努めている。	排泄ケアチェック表を記録し、各利用者毎に排泄支援方法を検討している。日中はトイレで座位排泄支援をし、職員もその意義を把握している。パッド類の軽減や布パンツ使用への他、尿意が無かった利用者が介助を受けることで尿意を取り戻し、自らトイレへ向かうようになった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排泄状況を記録し、状態把握に努めている。水分補給や運動促進を行うと共に、乳製品の提供など自然排便・便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には、曜日設定で対応しているが、あくまでも利用者の意向、体調に合わせて実施している。入浴を拒まれる場合は、強制することなく順番を替えたり、翌日に入浴して頂くなど臨機応変に対応している。また、入浴日以外は足浴を実施している。	入浴日は決めており、最低でも週2回の入浴支援を支援している。それ以外は足浴を行っている。全員が湯船に入れるよう、状況に応じ2人体制で介助をしている。拒否時は強制せず声かけや時間で対応したり、浴室で音楽を流したり入浴を楽しめる工夫を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は思い思い、本人のペースで生活して頂いている。又、日中も体調に合わせて自由に活動や休息が取れる環境にある。安眠確保への対応として、日中は体操やレクリエーションなど行い、活動的に過ごす様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の準備、与薬は数名の職員による確認を徹底し、誤薬防止に努め、服用後の確認も行っている。処方箋をファイリングし、職員一人ひとりが内容を確認出来るようにしている。処方変更時には伝達ノートで情報が共有出来る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除機かけ、室内掃除、洗濯物たたみなど、一人ひとりが得意とされる分野で力を発揮して頂けるような環境づくりに努めている。また、散歩やドライブ等を行い季節感を味合っていたり、気分転換支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近場の散歩は自由に実施されている方もある。又、職員が買物に出掛ける際、声かけを行い希望時には一緒に出掛けられるなど、極力外出の機会を確保出来る様にご支援している。季節によりドライブも実施している。	天候や体調に応じてホーム庭菜園の手入れや周辺の散歩を行っている。職員と買い物に出かけたり、ドライブを行っている。場所によっては家族の協力で外出している。季節毎に花見やホテルでの外食など、全員で外出を楽しめるように企画し、定期的実施している。	

グループホームゆうしゅん(1Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理され、外出や買物に行く楽しみを持たれている方もある。自己管理分の金銭については、ご家族と相談しながら対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には即、対応を行い安心して頂いている。1行事ではご家族へメッセージを依頼、行事の席でご披露させて頂き、ご家族との交流支援に努めることができた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や玄関からは海が眺められ、居心地のよい空間となっているが、共用の居間には毎月季節ごとの装飾を施し、季節の花を飾るなど季節感を感じて頂けるように努めている。また、快適な環境を保持するように衛生面においても配慮している。	玄関からリビング、廊下など共有スペースはゆったりとした広さがあり、利用者が自由に行き来することができる。室内の採光は目にやさしく、テレビの音量や職員の声なども耳にやさしい。各ユニットで季節感を利用者に感じてもらうような飾り付けを工夫しており、換気、清掃が行き届き快適な環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファで対話をしたり、テレビをご覧になられたりと入居者同士でくつろがれている。季節に応じて散歩や外気浴の機会を設け、入居者同士で自由に、ゆっくり過ごせる時間を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	極力使い慣れた家具や品物を持ち込んで頂き、自宅での生活環境に近い空間づくりに努め、安心して生活していただけるように配慮している。	居室には利用者の馴染みのタンスや小物が自由に持ち込まれている。家族の協力のもと、利用者が落ち着いて過ごせるようにベッドや調度類、飾り付けなど配置している。職員が清掃をし、換気や室温も配慮しており居室で和めるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの状態を把握し、トイレには大きなプレートを設置、自室入口に写真と名前をセットする等、安全に、また自立した生活が継続出来るような環境設定に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202528		
法人名	有限会社ケア・アンド・サポート		
事業所名	グループホームゆうしゅん (2Fユニット)		
所在地	長崎県佐世保市東浜町846-3		
自己評価作成日	平成24年11月10日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

佐世保湾の見える豊かな自然の中に位置し、心やすらぐ環境のもと「入居者全員がしあわせに過ごせますように」をモットーに、利用者一人一人が自分らしく、楽しく生活が出来るように、職員一丸となりご支援させて頂いています。日常生活面では、基本的な流れはあるが、日中の活動を強要する事はなく、本人の意思を尊重し、本人主体・本人のペースで思い思いに自由に生活して頂いている。又、個別ケアの実践により認知症の進行予防やADLの低下防止を図ると共に、バリエーション豊富な食事の提供を行い、心身両面のサポートに努めています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル7階		
訪問調査日	平成24年12月11日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	わかりやすい位置に理念を掲示し、各職員は日々その理念に基づき支援を行うよう努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々と親睦を深める事ができるよう町内行事へ、積極的に参加し交流を深めるよう努力している。ホーム便りを発行している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域からの相談に対しては介護職としての知識、経験を生かしたアドバイスを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の定期的な会議の開催で、地域の声に耳を傾けるよう努力している。また会議時活発な意見がありサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へ参加していただき相談、助言をうけている。また、必要時は担当窓口へ出向き相談を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束についての勉強会を行い具体的な内容を把握し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人ひとりが利用者個々の人権を尊重し、虐待や拘束のない支援をに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、制度の理解を深める為の勉強会を行っている。制度が必要と思われる利用者については、制度の説明や自治体や民間の機関を紹介している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用者、ご家族を含めわかりやすく丁寧な説明を心掛けており、納得頂けるまで説明し、同意を得ている。又、契約内容の改訂時には文章、説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、ご家族との対話を心掛けており遠慮なく意見や要望を話していただけるような雰囲気作りを行っている。改善点は職員会議で討議し、改善に向け努力している。又、苦情受付箱を設置し投稿できるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議はほぼ毎月実施し、確実に報告を受けている。問題点や意見は職員同士で話せる環境にあり、職員会議や勉強会において討議し、前向きに取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員数は、十分に確保され殆どが正規職員のため給与に関しては融通がききにくいですが、労働時間に関しては休み確保も満足いく様にしている。給与については、処遇改善の助成制度を利用して幾分改善したと思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務シフトに応じて参加できるものは、提案する様心がけている。2ヶ月に1回程度外来講師にて勉強会を行うようにしている。資格取得に関して、積極的に挑戦を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流に関して、お互いの時間の調整等がなかなかできず苦渋している。ブロック会議・研修会開催時には、参加し他ホームとの情報交換や交流の機会を得るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前、契約前の段階で必要な情報を得て利用者個々との対話で少しずつ信頼関係を築き、心身状況の把握理解に努め傾聴の態度で接するよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談で悩み事やニーズを共有し、今後の対応や方針を納得していただけるまで話し合いを行い、安心してご利用いただけるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、ご家族との十分な話し合いを行った上でニーズに応じたサービスの提供に努めている。また、外部サービスも視野にいれた対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に人生の先輩であるという敬意を払った上で共に支え学ぶ姿勢を忘れず感謝の心で接するよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の些細な変化も見逃さず、ありのままをご家族に伝え職員はご家族の思いに寄添いながら情報の共有や支援のあり方、方向性を検討しながら支援するよう努める。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人、友人の面会がある事により、継続的な交流ができており、馴染みの方との関係が途切れることのないよう個々に応じた支援に努める。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間へ出て来られる機会を多くつくり、レクリエーション活動などを共にし、会話の仲介を行うことで利用者間のよりよい信頼関係を保てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も医療機関や他施設への面会やご家族と情報交換を行うなど、付き合いが出来るよう努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、ご家族へ意向や要望を傾聴すると共に日々の会話や表情からとれるメッセージへも気を配り、その人らしく生活できられるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問を実施し情報収集を行い、これまで歩んで来られた人生や生活歴の把握に努める。入居後も、本人・ご家族の面会時の会話の中から新たな情報を得よう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムや心身状態に応じ、個別的サービスの提供ができるよう常に現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人、ご家族から意向や要望等の情報収集の他、アセスメントで課題を的確に導きだしそのうえで合同カンファレンスを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況や食事量等、個別に記録している。またケアプランサービス実施表や実施状況を記録し職員間で情報共有を徹底している。また、個別記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の意向に配慮しながら、本人家族の状況や要望に応じて臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1度実施している運営推進会議において、情報を得ながら地域資源を活用した支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に主治医による訪問診療を受ける体制ができている。また、訪問時は相談やアドバイスを頂き、ご家族と情報を共有しながら健康管理を行い、また、希望される医療機関へ受診ができればよいよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を整え、定期的な訪問看護で日常の健康状態の把握が出来る。また、気軽に相談でき日々安心して生活できている。又、突発的なケースに対しては通院介助や電話相談で対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人の不安を少しでも取り除けるように定期的な面会を行っている。また、入院期間中も医療機関、ご家族との情報交換を密に行い、万全の体制で退院できるようアプローチしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人ご家族の意向要望を確認しながら関係者全員で話し合いを行い同意の上で支援している。重度化、終末期、看取りについて事業所の方針を明文化し文章にして利用者本人、ご家族へ説明を行い同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルはある。消防署の協力を得てAEDの使用法や蘇生術の研修を実施したが、定期的には行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災管理者が消防計画書を作成し定期的に避難訓練を実施している。火災通報装置設置により自治会会長の登録を行い、地域の協力も得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩であるとの思いをもって、尊敬や敬意を払った言葉を心掛けている。又、ホーム便りへの写真掲載についての個人情報に関する同意を得ている等、プライバシーの保護に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々の状態に応じた声かけや見守りを行い意思表示が困難な方には、表情を読み取ったり些細なことでも、本人が自己決定できられるような支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるができる限り、本人のペースや体調に合わせて、本人の意向を確認しながら希望にそった支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者本人が着たい衣服、髪型等、自己決定を尊重した支援を心掛けている。また、希望時は美容院に行かれたり、定期的な訪問美容を利用される等、日常におしゃれを楽しむことができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望に添った献立づくりに心がけ、また、嚥下困難な利用者に対しては刻み食にするなど、個々の状態に合わせた食事を提供できるよう努力している。配膳や後片付け等利用者、職員が協力して行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮した上で利用者個々の好みや体調に応じた食事量や食事形態の工夫をしている。また、摂取量のチェックを行い健康管理をしている。水分不足にならないよう水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者個々の能力に応じた声かけ、見守り、一部介助等、本人の力に応じた口腔ケアの支援を行っている。また、毎日義歯の消毒洗浄を行い清潔保持に努めている。		

グループホームゆうしゅん(2Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、それぞれに応じた支援、又、極力、オムツの使用は控え排泄の自立へ向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材は消化の良い物を選定し、水分補給に努めると共に適度な日常運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日の固定はしているが、本人、ご家族から要望があれば、その時の状況に合わせて対応が出来るよう体制をとっており、個々に添った支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の心身状態に応じて、昼夜を問わずゆっくり休息がとれる時間を設けている。また、適度なレクリエーション活動を行う事で夜間の安眠確保に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新、過去の処方箋をファイルに保管して、常に各職員が内容を把握できるようにしている。また、飲み忘れや誤薬などが無いよう服薬の最終確認、準備段階で二重の確認体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割や趣味など利用者それぞれの経験や得意分野を生かした共同生活が送れるよう支援している。また、レクリエーション活動を行うことで気分転換を図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レクリエーションの一環として玄関先での外気浴や散歩を行っている。また、事前の申し出があれば状況をみてできるだけ希望に添った外出が実現できるよう努力支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は利用者、ご家族のニーズに応じ臨機応変に対応し、また、外出の際は個々で支払いをして頂く等希望や能力に応じた支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話など希望時即、対応を行っている。また、ご家族が遠方居られる方には、時々電話をかけ利用者本人が近況報告できられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節感や懐かしさをあしらった装飾を行い、心和まれる環境をつくりを行っている。不要な障害物を取り除くことで、安心、安全に過ごせ居心地よく生活できるような努力をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には、ソファやテーブルを設置しておりテレビや読書、会話を楽しまれ入居者同士くつろいでおられる。又、利用者一人ひとりが思い思いに過ごせる空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人やご家族と相談しながら、使い慣れた家具やテーブルなどを気軽に持ち込んで頂き、入所後もできる限り自宅に近い環境で居心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせて、手摺りやベッド等の環境改良を行っている。利用者全員が安全に過ごし、より自立した生活が送れるよう工夫している。		